

阪南市スマートシティ推進計画（素案）に係るパブリックコメントの実施結果について

1. 意見の募集期間：令和6年2月5日（月）～令和6年3月5日（火）
2. 提出者数：1名
3. 意見件数：1件

No	頁	章	タイトル	意見要旨	市の回答
1	34	4	スマートシティによる取組事項（個別施策）	<p>「スマートシティ推進計画（素案）」（以下推進計画と略称します）の「第2章・現状と課題」の市民アンケートから読み取れる特徴は、生活の課題、期待するスマートシティの取組の両方とも、30代40代以外のすべての年齢層で第1位に交通機関・モビリティが上がっている事です。したがって第4章スマートシティによる取組事項（個別施策）中の「移動・交通」に絞って意見を提出します。</p> <p>推進計画の取組方針は、「デマンドタクシーの実証実験やライドシェアの動向も鑑み、本市にとって最適な移動支援施策について検討」、「移動を必要としない解決策も検討」とあるだけで、まったく具体性がありません。「個別施策のアイデア例」においても、「オンデマンド交通導入の検討」とあるだけです。アプリによる送迎可能な人とのマッチングは国による関係法令の整備を待たねばならず、生活必需品配送サービスに至っては、市が「検討」するまでもなく、すでにスーパーマーケットや生活協同組合の宅配、移動販売などが実施されています。</p> <p>「現状と課題」については、「鉄道・バス・道路網は一定整備されているが、移動ニーズは多様化」している現状認識が正確なのかどうか再検討すること、課題に対応する取組方針の阪南市で可能な具体化が必要です。</p> <p>公共交通機関である鉄道・バスについては、「一定整備されている」が、人口減少、高齢化による通勤客の減少で増便は望むべくもなく、現状維持が最低限の目標になります。従って、「取組方針」は、「移動ニーズの多様化」への対応に力点を置いた推進計画が必要です。</p> <p>デマンドタクシーの実証実験は、「民間活力を活用した移動支援施策の展開に向けて調査研究を行う」と結果をまとめています。推進計画は抽象的な「検討」にとどめるのではなく、少なくともデマンドタクシー実証実験の結果をふまえた取組方針が必要と考えます。</p> <p>ちなみに、実証実験では、270便の平均乗車人数が1.34人と少ないこと、ドアtoドアの要望が強いことが明らかになったようです。このことに関連して、箱の浦自治会まちづくり協議会の「らくらく送迎」はドアtoドアで、月60～70件の利用があると報告されています（「箱の浦のまちづくりー10年のあゆみー」）。これは、現状の公共交通機関と市民の移動・交通に対する多様なニーズを結びつける「民間活力を活用した移動支援施策」の活きた実例と考えます。推進計画は、こうした具体的な市民生活を土台にして立てるべきです。</p>	<p>貴重なご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>本計画は、現状分析や市民アンケートを元に取り組みすべき分野を検討・整理し、取組方針を定めるものです。「移動・交通」の分野において、何が本市にとって最適な移動支援施策であるか検討している段階であるため、本計画では、原案のとおりとさせていただきます。なお、市民の課題認識が高いことを受け止め、スマートシティ推進の上でも重点分野として取り上げています。ご意見を参考に本市にとって最適な移動支援施策の検討を進めます。</p>